

砂防工は富國の種蒔

夫農は國の本也昔より士農工商と分ちありといへども其中の農民ほど貴きものはあゝいかんとなれば万物の長たる人を育ふの五穀を作り出だすものなれば也この勳功あるを以て畏くも

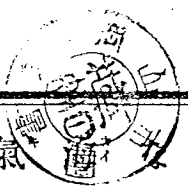
天子様より百姓をは大御寶と號け給ふかり實に勿休あき事あらずや其大御寶と唱へ給ふゆゑんは百姓といふ者は寒暑霜雪風雨もいとはず箒笠を身に放たず三百六十五ケ日朝より暮よ及まで絶間なく農に出で、打出の小槌を使ひつゝ米麥雜穀野菜など思ひのまゝにうち起し働ぐまに作り出し之を以て万物を養ふゆゑよ之よ優れる寶はかまどて大御寶とは名づけ給ふならん彼の打出の小槌と

は鋤クマの事也此鋤を幾萬億と限りかく力一ばお振アツあげて春  
は耕カキへい夏は耘クマり明暮れ倦ツます怠オシらす精キを出す農民ころ  
拜アガしても餘アツりある全く國の大御寶なりたどへば士シありて  
も農ノあくんば立タべからず商工も農ノなくんば何を以て商賣  
職業の道とて立タべきや又近き世は文明開化の域イキに進スみ專  
ら學校の設セあり軍旅イクの備ツあり其佗種々様々の開化イキに至スれ  
ども農ノあくんば彼の學費軍資イクの兵糧ヒョウも何を以て貯タマへ行キふ  
べきや万事万端マン農ノなくんば一日も立タべからず是コト依ツて之  
を思フへば農民の貴キきは言フを俟マたざるコトあり然るコト日を積ツみ  
月を追ツひ學マカなり兵ヘなり商カなり工カなり年々に進歩シンすと雖レど  
も第一の國の本たる農民には隨ズ分ブン稼カ業ギョウは勤ツむれども故コトな  
く衰シ微ビのいやますはいと歎ナかまき事コトども也概カして之ノを叙シ

んには過ぎ去り明治八年前地租改正からぬ其内は不公平な  
る租税にして貧富不當の地租をあげ貧民どもの難澁はい  
はんかたなく哀れどもいふべきは其後は人民御撫育の仁  
政深き處より王政復古貢法の九一歟また加ふるに十一  
ともいふて可ならん減租に成りよもや貧者は之より一  
統安堵を戴くと思ひの外は相違去て其田畑も賣放去彼是  
家産を離れしは君子の教の届かぬ歟貧者の驕奢のすぎた  
るか何分開化のすべりすぎ今の景況續きあば可也は家産  
を持傳ふ富家も俱よどさくど倒れ行べき兆あり其譯い  
かんと尋れば世上一統僭上し道德情を紛失去人の生眼は  
ひき抜ても我より利せんとどもくは狡猾情が增長し惡黨  
ものが蔓延去甚去き至りては強盜竊盜日増て裁判上

が繁雜ハジメ志少シヨクく學問ガク有る人は民權ミンケン黨トウじや自由ジユウ黨トウ何ナニじや角カクじ  
やとて名ナをつけて表オモては勤王キンウ愛國アイクニクと稱ホウへよけれど内實ナイジツの  
腹ハラと口クチとは大違オホチガひ世ヨを惑マヤふて民タミを誣ソウひ一イツ巳コの我欲ガボクふ日ヒを  
暮クラ志世セ上ジョウ衰微スイヒの種タネを詩シき國家コクカの爲タメなる事は夢ユメにも更サラふ  
聞キかざれば是等コトは眞マコトの國賊コクゾクなり又斯カスまでになさ人も兎角トカク  
仁義ニギギが薄ウスくして國家コクカの爲タメになる事が少々シヨクシヨク見込ミコが有アルとても  
骨折ホネオリだてをすは損先ソンケンきの百ヒャクより今イマ五十九イソナナ、一イツ身シニの我欲ガボク  
にて人目ヒトメばかりのさわりよく郷村コウソン貧者ヒシヤの困乏コンボクは見知ミチり聞キ  
ても知らぬ顔カハ胸欲ムネボク心シンは耻ハジとせず救助キウシュの心ココロは毫コトもなま一イツ村ソン  
舉テつて倒タるれば直ナさま我身ガミふ及オふのも心ココロも附ツかき過スぎゆ  
くは實ジツふ氣毒キドク笑止セウジなり最早モトマうろく目メを覺サく俱トモふく利リ  
を取トルて國危クニキけんといふ事を悟サりて互オノに氣キを合アせ心正シンテイ志シく

身ミを持マて富フ國クの道ミチが求モトめたく依ヨて此ココ度タビ我ワが岡オカ山ヤマ縣ケン廳テイよ砂サ  
防ボウ工コウ施シ行コウ規キ則ゾクを設セけられ其ソノ原ゲン因インをたづぬれば前マエに叙シヨべし  
農ノウ民ミンのみすく疲ヒ弊ヘイに至ニれるをいとも歎ナガかせ憐レみて仁ニ政セイ  
會カイ議ギが纏マりて富フ國クの基キ礎ソを開ヒかれき彼カの農ノウは國クニの本ホ也ナリう  
の大本オホホは山ヤマ川カハ也ナリ又マタうの源ヒナは山ヤマにあり此ココ山ヤマ積ツりて世セ界カイを爲ナ  
まこれ地チ球キウの根ネ元ゲンならぎや山ヤマは高タカく艸ソウ木ボクの蕃シれるが山ヤマの  
性セイなり川カハは深フカくして流リウ水スイ滯チりなきが川カハの性セイ也ナリ近チカころ之コレに  
反ハン對タイま五イ六ロク十年ニッパチ前マエよりいつとなく山ヤマ林リンの政セイりごと薄ウスくま  
て濫ランりよ樹ジュ木ボクを伐キり荒アラし名ナ有アルる高タカ山ヤマ名ナ嶺リョウまで皆ミ悉シツく禿カと  
く雨アメ降フることよ其ソノ土ツチ砂サは皆ミ溝コウ川カハに押オシ出デまて所ところ々の港みなとや  
灣湾や津ツ々々浦ウラ々々も皆ミ埋ウメり漁イサ夫ツまで業ギョウ度ドを失ウシへり附ツては神カミ  
氣キ薄ウスければ夏ナツの白シラ雨アメは稀コトよまて來クる年とし々々よ旱カン魃ハく總スベて農ノウ



家の業とまて梅雨を待て青苗を植てうの後は引續き農民  
男女老幼の分ちもあしに俱々に夏中脊なかの甲を干ふ炎  
るが如き日にやけて顔より汗は逆くだり憂きもつらきも  
うちわすれ骨を粉よまて身を碎き田草取るやら畑うつや  
ら實に苦まき業なれと一途よ豊熟々々と天を仰ぎ地よ俯  
まて收穫取るを一念よ樂しみ暮るうの末よ例の日照の強  
ければ果敢かく養水不足まて農民一同歎きつゝ互に手間  
を費やして夜の目もねすよ水をひき車踏やら争ふやら水  
の喧嘩よ大騒ぎ實に合戦のこどくなり又其上へよ雨乞と  
て神や佛に祈誓まて種々様々に祈れども曾て靈驗もあら  
ざれば全く早魃の災害に野面一圓枯倒れ哀れども悲しと  
も歎きても亦限りなま之よ變りてたまゝの白雨激り出

る時か且又洪水ある時は彼の禿山の谷々に溜り去土砂は  
一時に皆溝川へ押出して其溝筋の耕地へは多くの土砂が  
溢れこみ邊りの耕地一圓の地味を失ひろの中に一俵二俵  
の毛を耗ら甚まきに至りては流れ續きの川々は所々堤  
防を破裂して多くの耕地家屋まで海の沖までお流し指  
向き助けの術もなく命ちからにげ回り果して破堤の  
強ければ人畜及び鶏や犬猫までも流死して終に死骸も見  
にざりきさてもあはれの次第なり漸く大水治りて其跡か  
たを去らぶれば耕地の中は淵ができ川の中は島が出来  
目もあてられぬ有様あり夫より上下の大騒ぎ種々様々と  
大評議俄に臨時の補助方や破損の跡の修繕や費額を賦課  
去夫々修理方法も纏りて工事やうく竣へぬれと本

返らぬ人命と耕地の地味の廢り去は幾年立ても戻りやせぬこれ則其土地の永年衰微の基なり此水旱の災害に罹る原因顧みば山の政事の弛きより各郡村の山林を我儘非道に伐荒し皆秃山と成しより斯の危嶮に至りしを孰も天災と天を怨みて我々が年來弊風懶惰より目先きの日々の小欲が積りしめて郡村の衰微と國の亡るの必至と成し氣も附かず互に太平顔を以て過むを行ころ悲去ければ是を此儘捨置けは天災地妖いやまいていかよ開化な豪傑の賢人君子か出られても國の富強の道はかゝ依て此度仁政の砂防の規則を奉戴し各郡々村々よ我もく先立て競ふて工事を施行して成たけ速く抄どれば所々の谷より馳いづる土砂のどまるは見るがうち就ては溝渠あちこちの



所々の小河や大河も次第く深く成り耕地も漸次に肥  
たちて取實も俱に多くなり三年五年七年と禿たる山も追  
々に草木蕃り森林の深草山と化去たれば夏の夕立降り増  
去てたび四方に潤ひて田畑諸作豐熟去水旱非常の患  
なく上下冗務の費なく將又所々の海灣や港々も深くなり  
漕入る船も多く去て商品運輸の便利よく日々に漁業の獲  
る魚も思はず知らせ増殖去暴風波濤も静まりて五風十雨  
の御代とかり氣候よければ人民の衛生上も益を増去疫癘  
諸病の惱苦去一事が万事國の爲め此理りをよくさとり  
郡々村々漏かくに懇篤有志の諸君たち多識才智をお去ま  
すに力限りの明論をいかよも廣く商議して砂防の施工盛  
大に國の榮にの種蒔を返すくも祈るなり